

青年部事業所の各種施策・政策活用事例

商工会名	神奈川県 小田原市橋商工会		青年部員名	小野澤浩一
企業名	(有)オノザワ		代表者名	小野澤藤一
企業概要	業種	製材業	設立年	平成7年9月28日
			従業員数	3人
補助事業名	小規模事業者持続化補助金		テーマ区分(選択) 新商品開発・設備投資・広報・新規開拓・その他()	

【施策・政策を活用した経緯】※企業の経営状況、問題・課題等を含め記入

当社を取り巻く環境は、ハウスメーカーや建売業者の台頭、相反して地場工務店の衰退、またプレカット技術の普及や設備のユニット化・多様化等によって市場が大きく変化しており、昔は100%地場工務店との取引だったものが、ハウスメーカーや建売業者との取引が増大し、製材中心の業務から既成建材や設備等の卸へと取扱商品内容も変化してきた。そうしたなかで木材品においては、職人の高齢化、若手作業員の経験不足、建築工期の短縮化、加工時の塵や埃の飛散、近隣の騒音苦情等によって、加工済み部材（プレカット品）が多く求められるようになり、狭小現場増大で建築現場に余分な資材を保管できるスペース確保が困難なためジャスト・イン・タイムの納品、また、納期も短納期を求められる傾向になっていた。

しかし、ジャスト・イン・タイムと短納期に対応するためには解決しなければならない次の課題があった。

① 配達時間の増大

現場の職人の高齢化、若手作業員の経験不足で荷渡し作業労力の低下、狭小地の現場増大により荷渡し作業効率の低下が顕著になってきている。

② 特殊加工品等の作業時間の制約

当社作業場の近隣に住宅が増え、加工機械の騒音苦情を受けるようになり、平日の加工時間は16:30位まで、土曜日・祝日の加工機使用は極力制限せざるを得ない状況。

以上、納品作業は営業活動を兼ね極力自社配達する必要があるが、年々配達に時間が掛かるようになり、加えて騒音問題によって加工時間の制約を受けるため、利益率の高いプレカット品等を顧客の希望する納期に納められない状況が生じ商機を逃している状況にあった。

【主な活用内容、方法等】

そこで、小規模事業持続化補助金を活用して

① 梱包機を導入し、納品作業において納品し易いように荷造り（結束）をしっかりとす。手運びしやすい量にきちんと梱包することで納品作業時間を短縮できる。

② 騒音の苦情を受けないように作業場の防音工事を行い、朝夕や土日祝日でも作業可能にする。

以上の対策をとった。

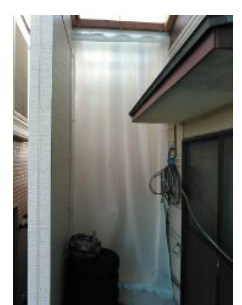
写真(3枚程度)



導入梱包機



防音工事①



防音工事②

【活用の成果】

①梱包機の導入による効果

職人の高齢化+若手作業員の経験不足の為、建築現場内で2階3階への差上げや横持ち運搬時、指摘（クレーム）が発生。現在、手縛り結束の木材が、バラバラになる事が多かった。これが梱包機の導入によって素早く適度に強固に結束ができるようになり、作業スピード、運搬効率が飛躍的に向上しクライアントからの指摘を改善出来た。

- ・ 利益率向上：クライアントから高く評価されている特殊加工材の販売価格を梱包機導入によって5～10%高利益実現。
- ・ 建築現場内への荷役作業時間短縮出来た為、特殊加工時間の加工機械稼働率の上昇や、営業活動時間が増えた。（荷役作業が1～2割短縮）

②近隣住宅境界部の防音工事の効果

課題であった「地域工務店（大工）や、ビルダー、ハウスメーカーの職人の高齢化、若手作業員の経験不足による加工済み部材ニーズに応えるため住宅に隣接する工場の平日の定時以降や土・祝日の加工時間をいか確保するか」を解決するため弊社ストックヤード開口部へカーテンシートの設置と防音工事を行ったところ設置前に最大90デシベルの騒音が、遮音カーテン設置後は近隣境界部にて平均80～82デシベルまで減音を確認出来た。



工事前



工事後

【活用後の声】

小規模事業者持続化補助金を活用して梱包機の導入と防音工事によってジャスト・イン・タイムの納品と短納期ニーズに対応ができ、売上増に繋がりこの支援制度に大変感謝している。